平成　27　年度厚生労働科学研究費補助金
(障害者対策総合研究事業障害者政策総合　研究事業（身体・知的等障害分野）)

研究課題名（課題番号）：医療的管理下における介護及び日常的な世話が必要な行動障害を有する者の実態に関する研究　（H27-身体・知的-指定-001　）

分担研究報告書

分担研究課題名：知的・発達障害者の成人精神科病院への入院治療の現状

分担研究者：内山登紀夫（福島大学人間発達文化学類）

１．研究目的

知的・発達障害者の成人精神科病院への入院治療の現状を把握する。

２．研究方法

発達障害を対象とした無床診療所において、成人精神科病院への入院治療を必要とした症例について入院理由、入院の効果、入院治療上の問題点について検討した。
倫理的配慮）匿名性を保つために、症例の記述を一部改変した。

事例１．16 歳男性。重度知的障害を伴う自閉症。自傷他害行為の悪化により
精神科病院に入院した。主な治療手段は保護室隔離と薬物療法である。病院側からは専門外のため、児童精神科病院への転院、あるいは施設入所を求められたが、転院・施設入所とも困難であり、保護室への入院が長期化している。
事例２．20 台男性。中度知的障害を伴う自閉症。多弁・多動がみられたため精神科病院入院。入院中にさらに行動悪化したが、行動異常が激しく拘束の上で抗精神病薬による治療がされた。家族の希望で転任。現在は家族と同居。
症例３　20 台男性。軽度知的障害を伴う自閉症。親と同居していたが地域社会で近所の人への暴言などの問題行動が継続するため、知的障害の施設に入所。しかし施設でスタッフとのトラブルが続くため、施設から精神科病院転院を求められ精神科病院に転院。入院時に取り決めた入院期間に達したという理由で退院。入院中には薬物調整も含めて治療的対応はされなかった。現在は別の施設に入所中。

３．研究結果及び考察

精神科入院を行った３事例について検討し

た。入院理由は他害や暴言、多弁などの外在化された問題行動が多かった。治療方法は薬物療法、保護室への隔離や拘束具などが主に採用されている、精神科病院での治療についての患者家族の満足度は低い、施設入所と精神科病院への入院の役割分担が明確ではないなどの問題点が浮き彫りになった。精神科病院側でも専門外等の理由で他院転院や施設入所、退院等を勧めることが多く、発達障害者の入院治療について積極的ではなかった。

来年度以降は、精神科病院への入院を必要とする発達障害事例についての多数例検討を行い現状の問題点や改善策を検討する。

４．評価（研究成果）

１）達成度について

初年度は事例検討を行う予定であったのでほぼ達成した。

２）研究成果の学術的意義について

３）研究成果の行政的意義について

発達障害者の成人精神科入院例についての問題点を明らかにした。今後は多数例検討を行いさらに問題点を探り、改善点を検討する。

５．結論

現状の成人精神科病院における発達障害者への支援内容には多くの問題があり、関係機関等の連携も不満足な状態にある。

６．研究発表

なし

７．知的所有権の出願・取得状況（予定を含む。）

なし